プロクルーステースの拷問と型にはまること

ギリシャ神話に登場するプロクルーステースは、家に招き入れた客人を、客室のベッドにピッタリと背丈が合うように、体がベッドに収まらなければ足を切断をし、ベッドの寸法に足りなければ客人の体を伸ばすと言う拷問を行いました。

「型にはめる」と言う言葉こそが、プロクルーステースの拷問を上手く言い表す言葉かもしれませんね。

全員が全員、一つの型にはまるはずがない。教育にせよ、社会にせよ。

だからこそ、教育機関はその生徒に合わせたベッドを用意した方が良い。日本と言う社会が合わないのなら、窮屈にベッドに寝そべるよりも、違う国のベッドを探す方が良い。

日本の新卒切符がどうして重宝されるのか？

とある人事担当者に聞いてみると、「新卒の子はまだ何も染まっていない白い反物だから」と言っていました。言い換えるなるば、￥会社と言うベッドに合わせて、身をひきちぎったり、伸ばしやすいと言う意味なのかもしれません。

皆様はベッドを買いに行く時にどうしてますか？店頭にある色んなベッドの上に飛び乗って試しに寝っ転がっていませんか？窮屈であれば他のを試し、購入して後、違和感や合ってないなと感じたらまた新しいベッドに買い替えるべきですよね。だって、人生で寝てる時間は人生の三分の一であると同じように、人生で働く時間も三分の一なのですから。

寝心地の良いベッドを見つけなければ…